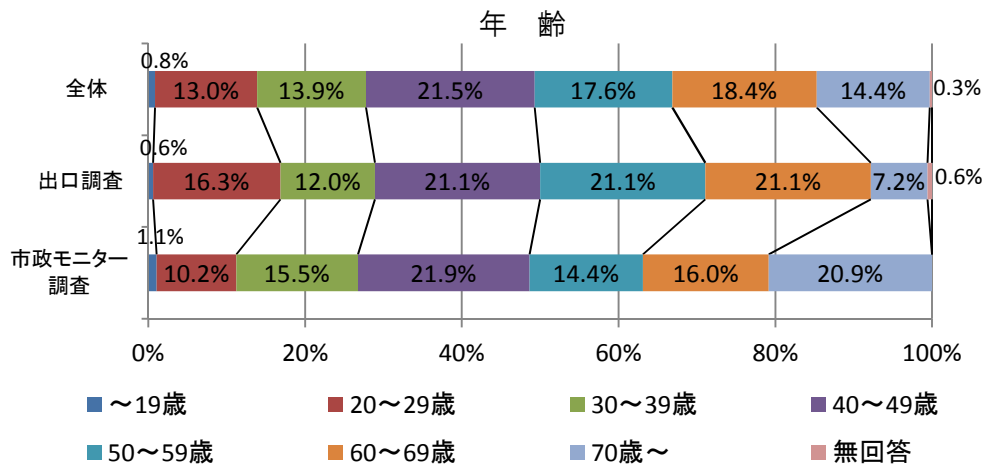
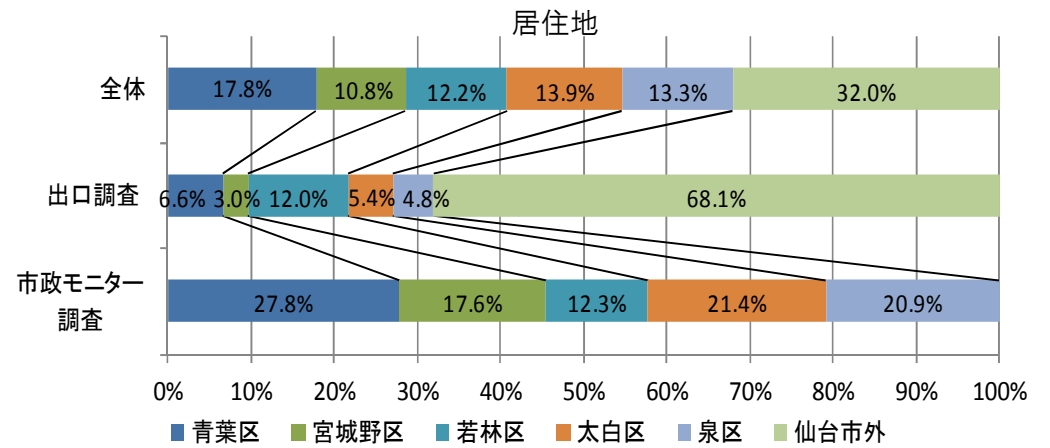
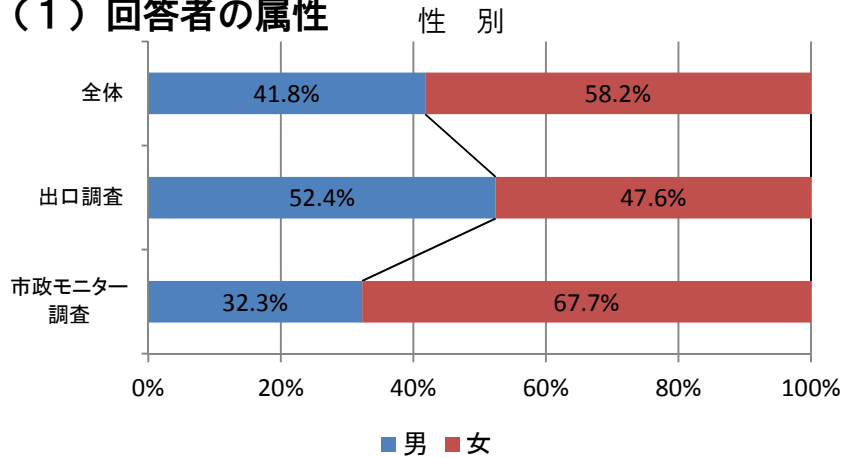


沿岸部施設来館者及び市政モニターへのアンケート調査結果

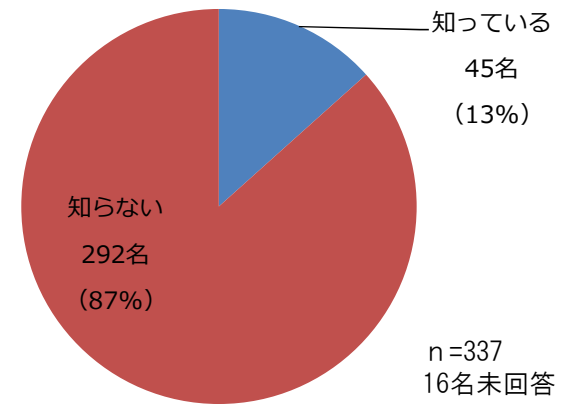
実施概要 沿岸部施設来館者への出口調査
 実施期間：平成30年9月中旬～平成30年12月上旬
 回答者数：166名 震災遺構仙台市立荒浜小学校：106名
 せんだい3.11メモリアル交流館：60名

市政モニターへのアンケート調査
 実施期間：平成30年8月20日～平成30年9月3日
 対象人数：200名
 回答者数：187名（回答率93.5%）

(1) 回答者の属性

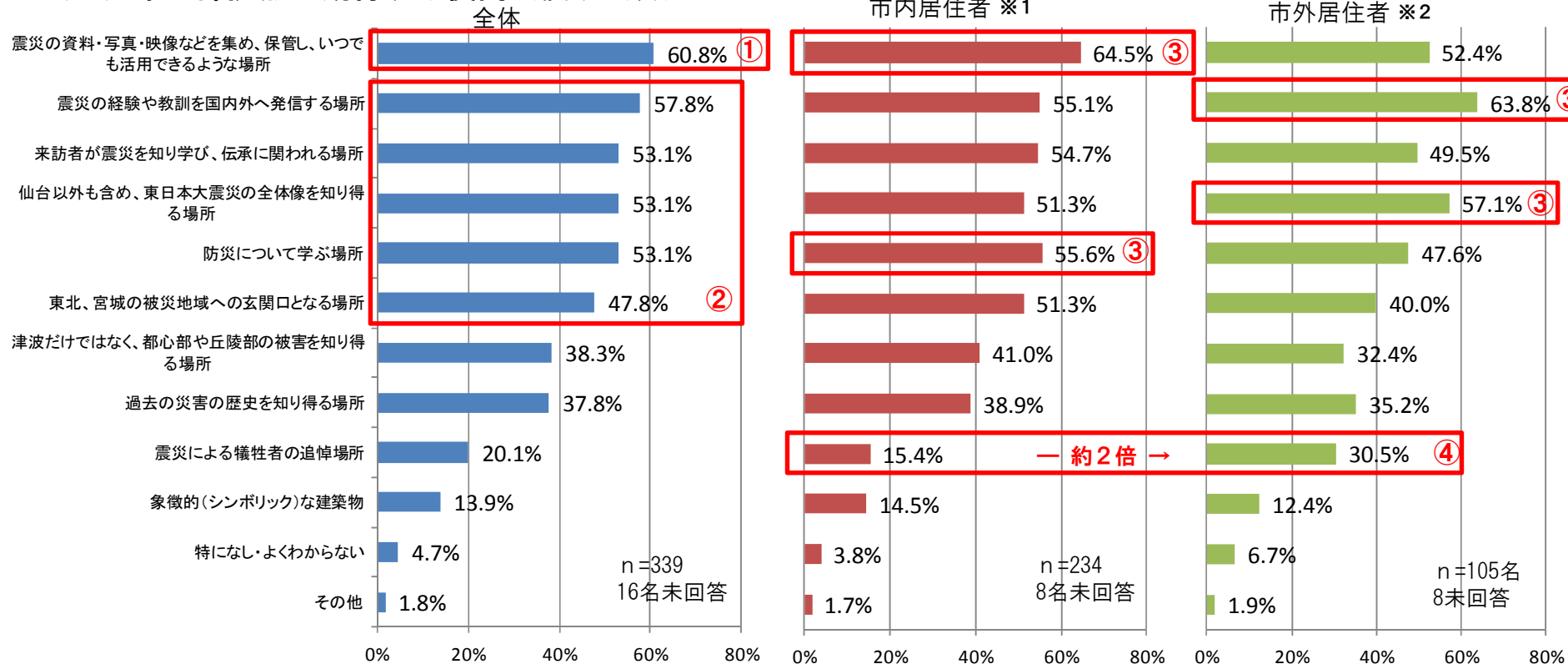


(2) 中心部拠点の検討の認知度



沿岸部施設来館者及び市政モニターへのアンケート調査結果

(3) 中心部拠点に期待する役割（複数回答）



①全体として一番期待される役割は、「震災の資料・写真・映像などを集め保管し、いつでも活用できるような場所」(＝アーカイブ機能)であった。

②「震災の経験や教訓を国内外へ発信する場所」、「仙台以外も含め東日本大震災の全体像を知り得る場所」、「東北・宮城の被災地域への玄関口となる場所」など、**仙台というエリアを越えた役割**を求める回答が多かった。

③市内居住者と市外居住者の違いとして、市内居住者の多くは、アーカイブ機能や「防災について学ぶ場所」を求めているが、市外居住者の多くは、「震災の経験や教訓を国内外へ発信する場所」や「仙台以外も含め東日本大震災の全体像を知り得る場所」を求める回答が多かった。

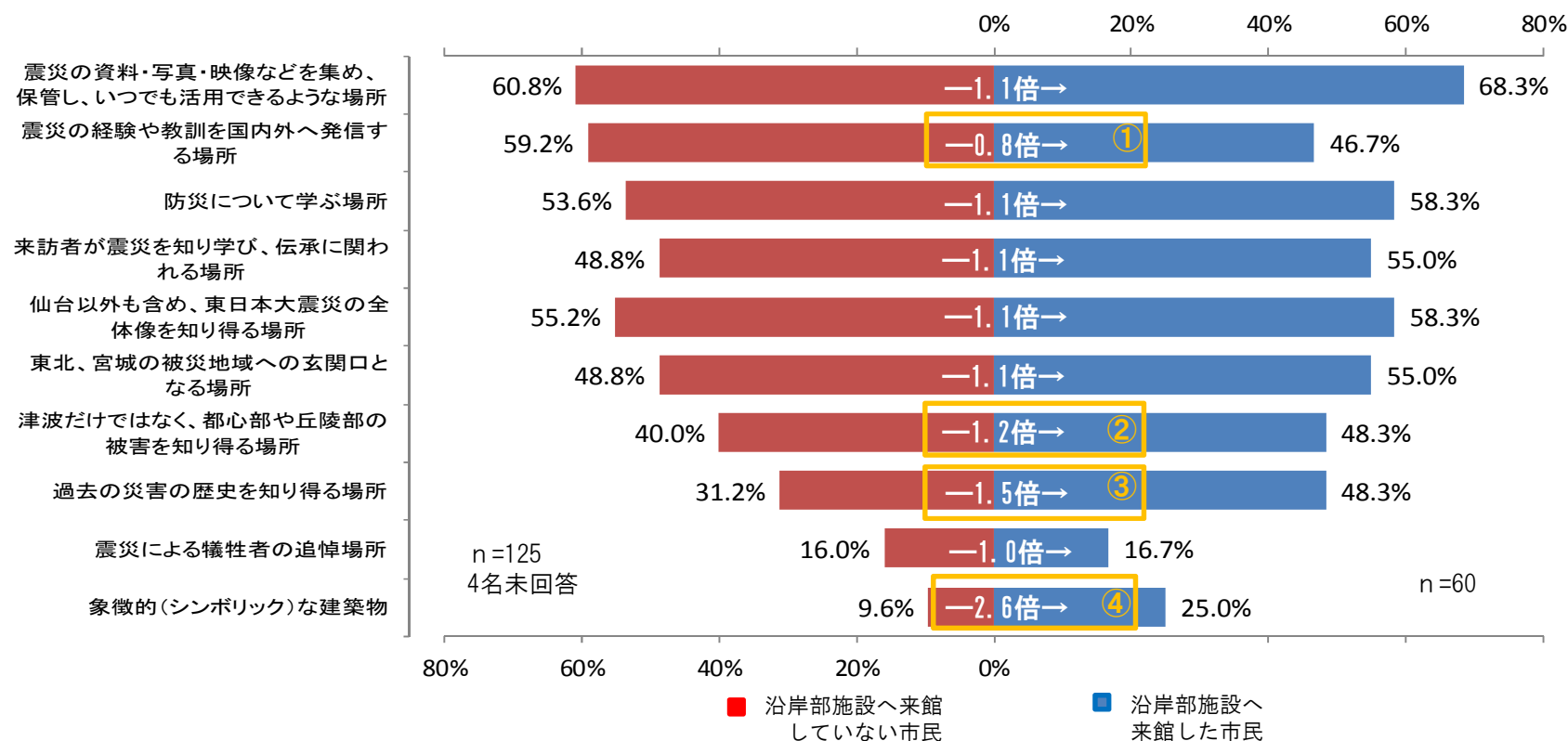
④比較的少数の回答ながらも注目すべき点として、「震災による犠牲者の追悼場所」を求める回答は、市内居住者に比べて市外居住者が約2倍と高かった。

※1 市内居住者（来館者出口調査の市内居住者と市政モニターの合計）

※2 市外居住者（来館者出口調査の市外居住者）

沿岸部施設来館者及び市政モニターへのアンケート調査結果

(3) 中心部拠点に期待する役割 (市政モニター調査における沿岸部施設来館経験の有無)



- ① 「震災の経験や教訓を国内外へ発信する場所」を求める回答は、沿岸部施設へ来館していない方に比べて、来館した方が約0.8倍と低かった。
- ② 「津波だけではなく、都心部や丘陵部の被害を知り得る場所」を求める回答は、沿岸部施設へ来館していない方に比べて、来館した方が約1.2倍と高かった。
- ③ 「過去の災害の歴史を知り得る場所」を求める回答は、沿岸部施設へ来館していない方に比べて、来館した方が約1.5倍と高かった。
- ④ 「象徴的な建築物」を求める回答は、沿岸部施設へ来館していない方に比べて、来館した方が約2.6倍と高かった。

沿岸部施設来館者及び市政モニターへのアンケート調査結果

(4) 中心部拠点について知りたい情報、疑問点、期待など（自由記述）

◆具体的な機能に関する意見の一部抜粋

- ・たくさんの情報があり観光に来た人たちにも震災の状況を伝えられる場所にしてほしい。
- ・教訓を生かしどう備えればよいのか、次に災害が起きた時にどのように行動し対応すればよいのかを学べる場であってほしい。
- ・仙台や東北の内陸部の震災当時の様子や、そこからどのように復旧、復興していったのか知りたい。
- ・たくさんの支援をいただいたことを取り上げ、東北を応援して下さる方々への感謝を伝える場にもなってほしい。
- ・訪れた人々の心に残るように、震災に関連する作品の展示が必要だと思う。
- ・メディア等では報道されない被害者の現実の苦しみや実態を示すことで、見る人々に記憶される内容を望む。
- ・東北全体の被害状況を展示する場所であるならば、福島原発事故を外してはならない。福島県とも連携を図りながら実現してほしい。
- ・大勢の人に見て頂けると同時に仙台の良さ知り、憩いの場として訪れるような場所にしていただきたい。

◆期待のコメントの一部抜粋

- ・東日本大震災の記憶と経験を未来へつなぐために大切なことだ。
- ・仙台市内に住んでいても被災地へのアクセスはあまり良くなく気軽に行きにくいいため、市内中心部にメモリアル拠点ができれば、気軽に友人や家族を誘って震災について学ぶことができるのではないかなと思う。

◆立地要件に関する意見の一部抜粋

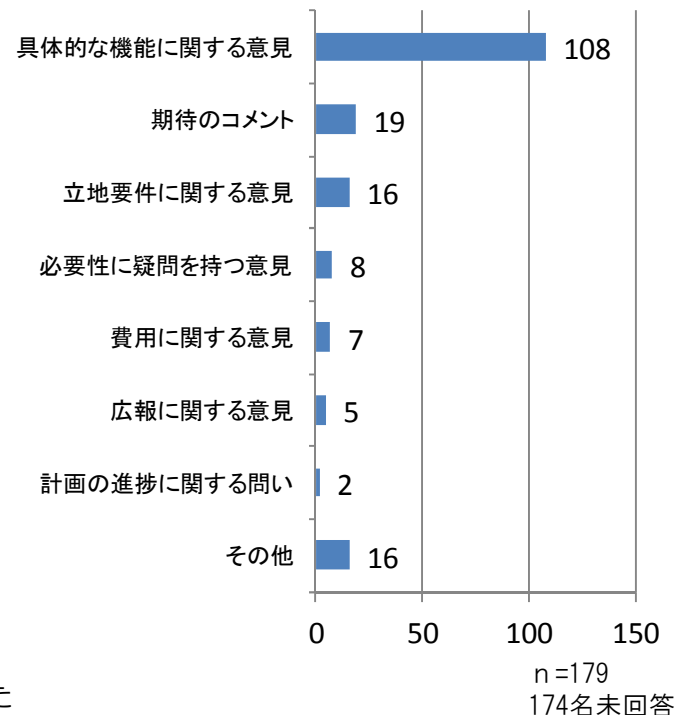
- ・仙台市民以外や宮城県・東北地方以外の人も、地震や津波の自然災害について考える場所が仙台駅や仙台空港など東北の玄関口にあると良いと思います。
- ・定期的に足が向くような所で、行きやすく入りやすい場所が望ましい。被害があまりにも甚大だったことを思い起こさせるような場所であってほしい。

◆必要性に疑問を持つ意見の一部抜粋

- ・中心部に拠点を作るより、現地に行って、個人的に感じた方が実態がわかる。
- ・せんだい3.11メモリアル交流館が中心部と沿岸部両方の拠点になればよい。

◆費用に関する意見の一部抜粋

- ・必要だとは思いますが、既存のあまり活用されていない施設を利用して金額を抑えて頂きたい。



沿岸部施設来館者及び市政モニター調査へのアンケート調査結果

仙台市中心部に検討しているメモリアル拠点について

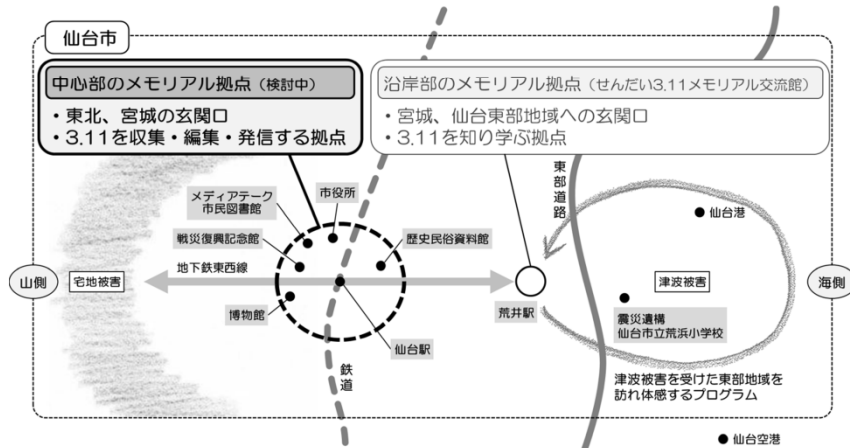
仙台市中心部メモリアル拠点とは

平成 26 年 12 月に、有識者によって構成される「仙台市震災復興メモリアル等検討委員会」から、東日本大震災の記憶と経験を未来へ、世界へ、つなぐ提言として、仙台市中心部と被災沿岸部の 2 拠点で、それぞれの場所の特性を活かしながら震災の経験を後世に伝えるための事業を推進することが有効と示されました。

利便性が良く人や情報が集まる仙台市中心部には「震災の記憶と経験を収集・編集・発信する拠点」を整備することが提言されており、現在、仙台市では市中心部における拠点整備について方針の検討を行っています。

なお、同委員会の提言における被災沿岸部の拠点として、平成 27 年 12 月に「せんだい 3.11 メモリアル交流館」を開館しました。

※詳しくは別紙（仙台市震災復興メモリアル等検討委員会報告書 P11～12）参照



問 3 3 あなたは、仙台市が仙台市中心部に震災メモリアル拠点の整備を検討していることをご存じですか。

- 1 知っている 2 知らない

問 3 4 市内中心部のメモリアル拠点にあなたが望む役割を教えてください。(該当する番号をすべてチェックをしてください。)

- 1 東北、宮城の被災地域への玄関口となる場所
- 2 震災の資料・写真・映像などを集め、保管し、いつでも活用できるような場所
- 3 震災の経験や教訓を国内外へ発信する場所
- 4 来訪者が震災を知り学び、伝承に関わる場所
(例：先人の知恵を聴き、自らの体験を伝え残す活動の拠点など)
- 5 仙台以外も含め、東日本大震災の全体像を知り得る場所
- 6 津波だけではなく、都市部や丘陵部の被害を知り得る場所
- 7 防災について学ぶ場所
- 8 過去の災害の歴史を知り得る場所
- 9 震災による犠牲者の追悼場所
- 10 象徴的（シンボリック）な建築物
- 11 特になし
- 12 よくわからない
- 13 その他

問 3 5 仙台市が市内中心部にメモリアル拠点を検討していることについて、あなたがもっと知りたいと思う情報や疑問点、中心部メモリアル拠点に期待すること等、あなたの意見を自由に記入してください。

調査は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。